



子どもを地域のまん中に

～子どもたちの可能性を広げるために～



仙台市教育委員会

なんだか、年々さびしくなっていくな……。

「昔は、たくさん子どもたちが、わいわいがやがやとにぎやかに七夕飾りを作ったものだが、最近、めっきり子どもの数が減ってしまったなあ」

Kくんは、地元のスポーツ少年団のサッカーチームに通う5年生です。
今日は、子ども会で地域のおじいさんやおばあさんに教わりながら、七夕飾りを作りました。
おじいさんやおばあさんは、子どもたちの笑顔を見ると元気が出るので、一生懸命に子どもたちとかがわってくれますが、おじいさんは少しさびしそうです。

「私の小さい頃は、クラスもたくさんあったし、ひとクラス40人ぐらいいたかしら。
いろんな友だちがたくさんいたわねえ」

と、Kくんのお母さんも、最近の子ども会の活動が、めっきり元気がなくなってきたことを実感するのです。



えっ！ 学校で サッカーのゲームができない・・・！



「いいな。Sくんは、学校でも思いっきりサッカーができて・・・。
ぼくが、サッカーのゲームができるのは、ここだけなんだよ」
「えっ！ どうして？」

ある日、練習のときにKくんは、Sくんから体育の時間にサッカーの試合をして盛り上がる話を聞いて、とてもうらやましくなりました。

Sくんの通う学校は、5年生が3クラスあります。

それにくらべてKくんの学校の5年生は、男子9人、女子4人の1クラスなので、2チームに分かれて試合をすることは難しいのです。

体育の時間のサッカーは、パスやシュートの練習や少ない人数でのミニゲームが中心になります。

Kくんの学校では、休み時間に校庭で思いっきり遊んだり、遊具も伸び伸びと使ったりすることができます。ただ、体育でのサッカーやバスケットボールをするときの対戦相手はいつも決まっていて、ゲームをする前から結果が見えてきてしまいます。

迎えに来たお父さんは、Sくんと話をしているKくんの浮かない表情が気になりました。

先生が目が行き届いて、 ていねいに教えてもらっているのね。

「アルコールランプには、気をつけるんだよ」

今日は、Kくんの学校の授業参観日です。

5時間目は、理科の授業。

食塩水の蒸発をアルコールランプを使って実験しています。

Kくんのお母さんは、各グループをていねいに見てまわる先生の様子から、火を使った実験でも、人数が少ないと安心な面があることを感じました。



理科の実験は、Kくんもとても楽しみにしている授業の一つです。

でもクラスでは、理科の得意な人が意見を発表すると、みんな賛成してしまいます。

そんな時、その友だちには、かなわないような気がしてしまうのです。

5年間も同じメンバーだと『理科が得意な人は誰』と決まってしまうがちで、発表するグループの数も少ないので、色々な考えが出にくくなります。

休み時間や放課後は上級生も下級生も仲良く遊んでいます

つい手加減して、思いっきりプレーできないんだ…。



「ボール蹴るからな」

「はい」

休み時間はKくんにとっても、大好きな時間です。いつも校庭で、6年生と一緒に下級生を相手にサッカーやドッジボールをしています。

ただ、どうしても下級生を相手にするときは、自然に手加減をしてしまい、『もっと伸び伸びとプレーをしたいな』とってしまうのです。



「今度の懇談会で、取り上げてもらおうかしら」

授業参観の帰り道、友達のお母さんから中学校のサッカー部がなくなることを聞いたお母さんは、夕食のときにお父さんに相談しました。

「町内会の集まりのときに、地域の子どもたちのことや学校の様子も話題にしてみるよ」

Kくんが、中学校でサッカー部に入りたいと言っていたことや、スポーツ少年団での浮かない表情を思い出したお父さんは、心配になってきました。

子どもを地域のまん中に

これからの教育について、みんなで考えていきませんか

子どもたちの笑顔と成長が 地域を元気にします

みなさんが住んでいる地域では、夏のお祭りや町内会主催の様々な行事、子ども会で行う「七夕づくり」や「資源回収」、あるいは「すずめ踊り」や「神楽」といった伝統的な行事など、子どもたちが楽しみながら地域とふれあう機会が数多くあります。

このように、子どもたちと地域は強い絆で結ばれています。

また、これらの行事は、学校を会場として行われることが多く、地域コミュニティにとっても子どもたちは大きな存在となっており、子どもたちの笑顔が地域を明るくし、子どもたちの成長が地域を元気にします。



よりよい教育環境とは・・・

～子どもは集団の中から
いろんなことを学んでいきます～

小学校時代は、クラスや学年といった集団の中で、様々な考えを持った多くの友達と交わることにより、協調性や連帯性を培い、ともに伸び行く力を身につけるのに最も重要な時期だといわれています。

子どもたちは、新しい友達に出会えることで、人とかかわり方や社会的なルールを学び成長していきます。

このような集団の持つ教育力を高めることが、今、学校や地域で求められています。



多彩な交流が 子どもたちの世界を広げます

M小学校 Y先生の話
(6学年担任)

ふだんの人数を超えて隣の学校と交流学習を行うことで、「総合的な学習」などにおける子どもたちの学習意欲が高まっていくことが伝わってきました。担任として、子どもたちが6年間同じメンバーで過ごすことをとても心配していました。最近、閉塞感がどうしても強まってしまい、互いに干渉しすぎ、言葉もきつくなりがちな様子が見られました。それが、「交流」という外へ目を向ける機会を得たことで、エネルギーが外へ放出される形となり、クラスの人間関係もよい状態が続くようになりました。中学進学に向けても、大きな中学校に行くことで担任として不安を感じていましたが、交流学習で他校の人たちと積極的にかかわろうとする姿を見ていると、少し安心感が生まれています。

様々な交流が、子どもたちを成長させる様子を見て、より大きな世界を意識させることが大切なのだとつくづく実感しました。



10年後、20年後の地域の姿を みんなで考えていかなければなりません

～地域の担い手となる 子どもたちの将来を見つめて～

地域コミュニティは、それを支え引き継いでいく人々があつてこそ広がっていきます。そして、「魅力ある学校」は、地域の方々と学校との協働によってつくられています。

今、地域においては人口減少や少子化が進行しておりますが、学校においても子どもたちの学びの環境は少子化という状況の中で、多様な交流が確保しにくくなっています。地域社会の次世代の担い手である子どもたち一人ひとりの可能性を広げるために、どのような教育環境が必要なのでしょう。

今こそ、学校や保護者、地域の方々が一緒になって、「子どもを地域のまん中」におきながら、これからの教育や将来の地域の担い手である子どもたちについてみんなで考えていきませんか。





みなさんの声をお寄せください

これからの教育のあり方について、「子どもを地域のまん中」におきながら、みなさまとともに考えていきたいと思えます。

ご意見、ご提案などありましたら、下記までお寄せください。

お問い合わせ

学校規模適正化推進室

〒980-8671 仙台市青葉区二日町1番1号

電話：214-8432 Fax：264-4428

Eメール：kyo019031@city.sendai.jp



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



この印刷製品は、環境に配慮した原料と工場で製造されています。



この印刷物は、輸送マイルージ低減によるCO2削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しております